

平成三十年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

(知事賞) 奨励賞

水と日常

松山市立椿中学校 二年 松井 望

私たちの体の大半は、水でできています。もし、地球に水がなければ、私たちは存在していないかもしれません。地球は、水のある奇跡の星です。この日常全てが、多くの奇跡でできています。でも、私たちは普段そのことをあまり意識していません。もう一度、水について改めて考えてみたいと思いました。

文明は、水と共に発達してきました。例えば、エジプト文明やメソポタミア文明などの多くの文明のそばには、大きな川がありました。農業や狩りなど、人々は、水がないと生活できません。それは現代も同じです。水は生活にとっても役立つてきました。しかし、ときには多くの命を奪う脅威になることもあります。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こりました。この地震で発生した津波は、多くの命や大切なものを全て奪い去っていきました。僕にはそのころの記憶はあまりありませんが、津波の被害状況を、連日ニュースでしていたという話を母から聞きました。また、関東のスーパーでも、品物が不足していたようで、東京に住む母の友達の家に、パンやカップ麺などすぐに食べられる食品や、貯水袋などを送ったと聞きました。自然の力はとても強大で無情なんだなと思いました。ちょうど震災の日、僕の祖母は体調不良で入院していました。もしこのときに地震や津波が僕たちの住む愛媛県で起こっていたら、僕の祖母

や家族、友達が奪われていたかもしれない。津波の恐怖は、遠く離れた愛媛にいても伝わりました。

僕のまわりにも昨年、怖い出来事がありました。九月十七日に、台風十八号の影響で、松山市の南を東西に走る重信川が、氾濫の一手手前まで水位が上昇しました。重信川は、江戸時代に足立重信という人が治水するまで、よく氾濫していたそうです。幸いにも今回は氾濫はまぬがれましたが、これも過去の人々が自然と戦い、その都度対策をしてきた結果だと思えます。護岸工事がしっかりとされたり、インターネットで川の水位の情報がリアルタイムで見られるなど、江戸時代に比べたら格段に災害への対策はできていると思えますが百パーセント自分たちの命を守れるというわけではありません。普段から防災の意識を高めておくことが大切だと思います。

水害は、いつ起こってもおかしくありません。何かが起こる前にできることは、たくさんあると思います。日頃から家族で避難場所を確認しておいたり、非常用持ち出し袋を用意しておくなど、備えの必要性を家族で話し合いました。

水道の蛇口をひねれば、あたり前のように出る水ですが、これも地球という奇跡のたまものであり、恵まれた数少ない国である日本だからこそだと思います。このような環境にいるため、普段は水のありがたさを感じることなく生活を送っていますが、これからは、水の大切さを考えるだけでなく、時には水の怖さも感じながら生活していこうと思います。